

# 泰らぎ

Vol.56  
2020年  
春号



弥生祭での作品  
～認知症治療病棟より～



温故会



日本医療機能評価機構  
認定第 JC1555 号

温故会  
直方中村病院  
福岡県認知症医療センター  
<http://www.onkokai.jp/nakamura/>  
編集・発行 直方中村病院広報委員会

- P1 表紙・目次
- P2 【新しい病原微生物との戦い】  
～吉村院長より～  
【活動のご紹介】  
・ARP歩こう会 ～急性期病棟より～
- P3 【活動のご紹介】  
・節分レクリエーション ～認知症治療病棟より～  
・弥生祭
- P4 令和元年度 福岡県認知症医療センター  
直方中村病院 専門職向け講演会のご報告  
～地域医療連携室より～

# 新しい病原微生物との戦い



## ～吉村院長より～

例年なら水の暖かみも増し、桜の開花の便りも聞かれ、桜見会をと笑い声が聞こえてくる候となりました。しかし、新型コロナウイルスによるパンデミックのため、ヨーロッパのいくつかの国では外出も出来ない状態になっています。以前発生したSARSは主に中国でコウモリからハクビシンへ、MERSは中近東のコウモリからヒトコブラクダへの感染の可能性がいられています。いずれも治療薬やワクチンはいまだに開発されておらず、いつときも早い薬の開発が待たれます。アメリカではすでに今回のコロナウイルスのワクチンの治験が行われているようですが、実際に使用されるまでには、まだ一年半くらいはかかるとのこと。たかが電頭でしか見ることができない微小なウイルスに、私たちの免疫系は何をしているのかと不安になると共に腹も立ちますが、以前にはスペイン風邪ウイルスによって世界で死者が5000万人～1億人に達したとの記録があります。ウイルスのみでなく細菌に関してもいくつかの耐性菌が出現しており、新しい抗菌剤の開発が待たれるところです。さらに、従来非常に恐れられてきた結核も高齢化に伴い発病患者数が顕著に増大しており、微生物との戦いがさらに深刻化することが予測されます。となれば今回のパンデミックから多くのことを学び、新しいウイルスに対する備えを怠りなくし、抗菌剤の使用方法についての知識も蓄積することが重要になると思われます。パンデミックが終息したらストレス発散のため騒ぐのも良いでしょう。しかし、次に現れる新しい病原微生物に対する対処の仕方や予防についてももしっかり学び備えていきたいものです。

直方中村病院  
院長 吉村 恵

## 活動のご紹介



### ARP歩こう会 ～急性期病棟より～

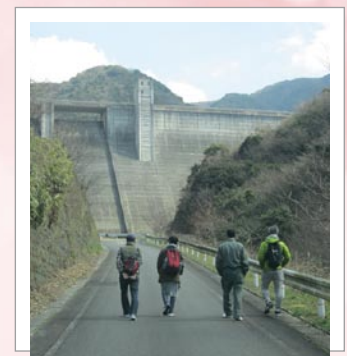
2月の歩こう会は福智ダムの方へ行きました。出発前の撮影、本日はお天気に恵まれました！まずは歩いて目的地まで向かいます。無事福智ダム到着し、色々景色など見て楽しみました。帰りは変わりなく、みな無事に病院へ帰ることができました。次回4月は花公園を予定しています。



昼休憩でお弁当  
しっかり食べて体力温存 ▶



▼ 福智ダム到着～



# 活動のご紹介

## 節分レクリエーション ～認知症治療病棟より～

認知症治療病棟は2月・3月とレクリエーションを行いました!こんな時だからこそ!患者さんも職員も楽しまないと!

節分祭では豆まきと、カラオケ大会を行いました。手作りのフェルト豆を使い、ファンキーな鬼に扮したスタッフへ思いっきり投げて頂きました。が、スタッフが鬼だからか皆優しく豆まき、ぶついたりしないですね。ケースに入ると大喜びです。福は内、コロナは外!です。

続いてカラオケ。

声を出して肺活量アップです、患者様の歌声で和みます。白内障の手術をしてカラオケの字幕が読めるようになった患者様がおり、とても喜んで歌っておられました!

患者様もスタッフも免疫力上げて何とか乗り越えます!



## 弥生祭

3月は春らしい行事を行いました!

お雛祭で、花見もしようと、枯れ木に花を咲かせましたよ。ペタペタ手のひらで満開です。

スタッフの手形で釣りを楽しんで頂いて…

この間に作品完成。

花見しながら歌を歌って白酒、立派な雛祭りに成りました。

さて、次は何をして大笑いしましょうかね。



本日の  
ベストお雛様 ▶



# ～地域医療連携室より～

## 令和元年度 福岡県認知症医療センター 直方中村病院 専門職向け講演会のご報告

テーマ「自分らしく生きる!! ～接し方が変わると笑顔がふえる～」



R2年2月7日（金）に専門職の方向けの講演会を開催しました。

当日は76名の方に参加していただきました。グループホームみんなの家 山本幹雄先生に認知症の方への関わり方とケアのポイントについて講演していただきました。

認知症の方との関りの中で BPSD（行動心理症状）の対応に困ってる方が多くいらっしゃるのではないかと話があり、他機関や他職種の方とどんなことに困っているか等グループワークを行いました。「帰宅願望が強い方」「大声を出す方」「怒りっぽい方」の対応に困っているという意見がでました。

そこで山本さんから BPSD について「認知症の人は特別な人ではない」1人の人として見ていくことが必要。「この人は認知症だから」ではなく、この人の気持ちの中で今何が起きているのかを考えると「急に〇〇になった」ということではなくなるのでは？

BPSD の出現には何か影響があることを考えることが大切。その要因の中で割合が高いのが職員の対応なのではないか。困っているのは職員ではなく、認知症の方本人であり、認知症の方を「困った人」と捉えるのではなく、「困っている人」として捉えることが大切であり、自分自身の対応や環境を整えることによって BPSD の軽減に繋がる、ということを教えてくださいました。BPSD の対応方法に正解はなく、その時の本人の状態についてその人のことを思って行った行動が「認知症の人が満足して笑顔で過ごすこと

ができてい」るとなれば、それがその人にとって正しいケアの方法（正解）になるという言葉が印象に残りました。

実際に山本さんのグループホームで入居者の方それぞれの好きな事や得意なことを活かした様々な活動（料理や畑作業、佐賀への旅行等）を写真と共にお話で聞く事ができて話のイメージが付きやすかったです。また、職員の中で入居者の方の環境調整を頑張った人を表彰する等の工夫を施設でされていることを教えてくださいました。

今回の講演会では、認知症の人と家族の会 直方のみなさんに受付スタッフのお手伝いをしていただきました。

ご協力いただきありがとうございます。講師をしていただいた山本さんもお忙しい中、講演していただきましてありがとうございます。

令和元年度の講演会は今回が最後でした。今回初めて参加して下さった方も毎回参加して下さる方もご参加いただきましてありがとうございます（\*^\_^\*）平日の夕方開催でしたが多くの方に参加していただきました。

令和2年度も講演会は開催予定ですので詳細が決まり次第ブログでお知らせしていきたいと思ひます。

ご興味のある方は是非参加していただければと思ひます。

福岡県認知症医療センター直方中村病院  
地域医療連携室 一同